

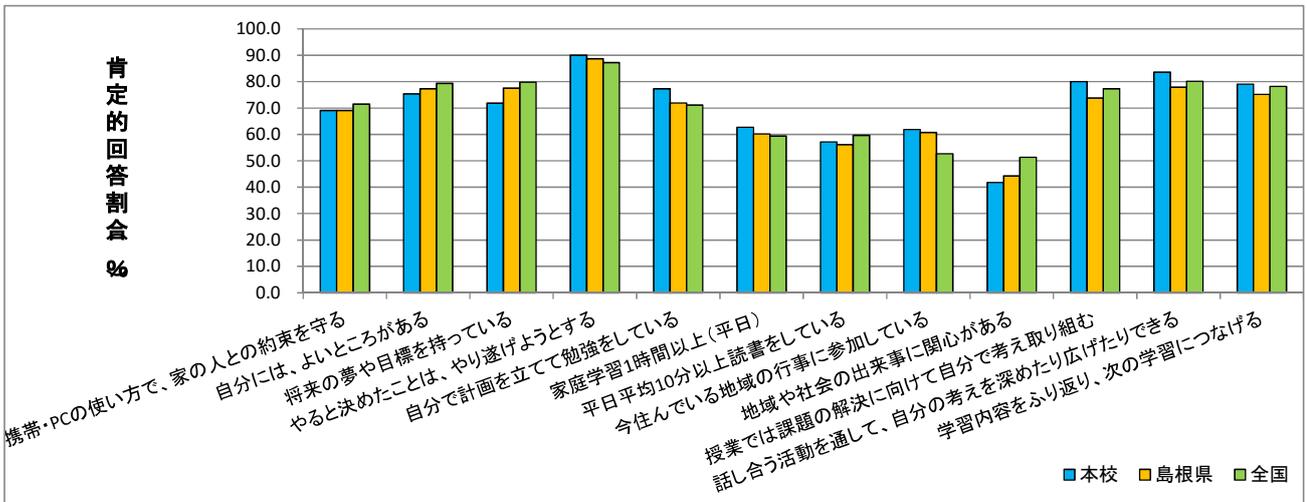
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
国語	○どの領域においても、全国よりも平均正答率が高い。 ○5年時の正答数分布グラフでは2こぶ現象が見られたが、今回は平均正答付近に固まるグラフの形に移行している。 ●記述式問題において、筆者の意図や会話文の要点をまとめて表現する(条件付き)問題の正答率が低い。	・国語だけでなく様々な教科で学習のまとめや自分の考えを書く際に、条件付き(文字数指定やキーワードあり等)で表現することを継続して取り組む。 ・重要な部分を選び出す→要約する→必要な情報を見つけ文章と結び付けるといった段階を追った取組を全校で進めていく。
算数	○どの領域においても、全国よりも平均正答率が高い。 ●概数で表す問題において、場面に応じて切り上げや切り捨て、四捨五入を使い分ける問題の正答率が低い。 ●割合の問題において、量が変わっても割合は変わらないことが定着していない傾向にある。	・学習問題の設定を精選し、多様な問題に触れられるようにする。また、問題の中から大切なことに印をつけたり要約したりすることを習慣化させる。 ・実際の場面(買い物や果汁入りジュースなど)を授業の中で設定し、体験的な学習を通して場面に応じて身に付けた知識を使いこなすことができるようにする。
理科	○どの領域においても、全国よりも平均正答率が高い。 ●問題文から問われている内容を理解できていない問題が見られた。 ●実験結果をまとめる問題において、順序立てて整理しながら表現する力が低い傾向にある。	・単元の終末段階では、単元で身に付けた知識を使って解ける問題を多様に準備して取り組めるようにする。 ・課題解決の結果をまとめる場面において、順序立てて結果を表現する活動を友だちと関わりながらできるように設定する。

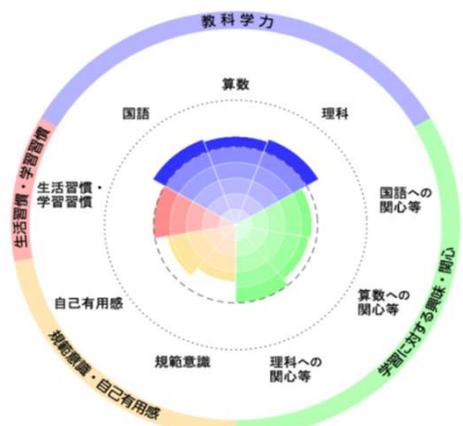
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
質問紙	○学習意欲が高く、授業で友だちと関わり合いながら学ぼうとする児童が多く、家庭学習や読書時間が全国平均よりやや高い。 ●将来の夢や目標をもち前向きに生活しようしたり、地域や社会の出来事に関心をもって行事に参加したり自分にできることを考えようしたりする児童がやや少ない。	・自分や友だちのよさに目を向けられるように、友達との関わり合い・学び合いを様々な学習や生活場面で意図的に取り入れる。 ・総合的な学習の時間を中心に地域のもの・こと・人に触れる機会を計画的に設定し、体験や対話を通して地域に目を向け行動しようとする子どもを育てる。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

『最後まであきらめない』  
 ・読書の質を向上させる。読書量は十分確保できているので、さらに様々なジャンルの読書に挑戦したり読書したことを伝える活動を充実させたりする。  
 ・書く活動を充実させる。まとめや自分の考えを伝える場面では時間を十分に確保し、相手に伝わる表現を磨いていく。  
 ・要約することを習慣化させる。

【受検者数】  
 110 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。